

6 3 6 1 - 8 1 1  
平成 1 8 年 1 0 月 2 4 日

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成 1 8 年度病害虫発生予察注意報第 6 号について  
平成 1 8 年度病害虫発生予察注意報第 6 号を発表したので送付します。

## 平成 1 8 年度病害虫発生予察注意報第 6 号

平成 1 8 年 1 0 月 2 4 日  
宮 崎 県

病害虫名 うどんこ病、ミナミキイロアザミウマ

作物名 ピーマン

1 発生地域 県下全域

2 発生時期 本圃生育初期

3 発生量 うどんこ病 やや多  
ミナミキイロアザミウマ やや多

### 4 注意報の根拠

- 1) うどんこ病：10月中旬の巡回調査における発生面積率23.1%（平成4.4% 前年16.7%）は平成より多、発病葉率0.3%（平成0.2% 前年0.8%）は平成よりやや多である。
- 2) ミナミキイロアザミウマ：10月中旬の巡回調査における発生面積率61.5%（平成25.2% 前年25.0%）は平成より多、10花当たり虫数0.7頭（平成0.6頭 前年0.5頭）は平成並みである。
- 3) 向う1ヶ月の長期予報によると、天気は平成に比べて晴れの日が多く、気温は平成より高い、日照時間は平成並みまたは多いと予想されており、うどんこ病やミナミキイロアザミウマの蔓延・増殖に好適な条件は続くと考えられる。

（鹿児島地方気象台 10月20日発表）

### 5 防除上の注意

- 1) いずれの病害虫も多発生後の防除は困難となるので、早期発見・早期防除に努める。  
各病害虫の防除のポイントは次のとおり。

#### 【うどんこ病】

うどんこ病は気温15～28のやや乾燥した条件で発病しやすいので、ハウス内をあまり乾燥させ過ぎないように管理する。

上位葉への進展が見られるなど病徴の激しいほ場においては、1回散布では防除効果が現れにくいことがあるので、1週間間隔で2回以上の防除を実施する。

ピーマンのうどんこ病菌は、他の作物のうどんこ病菌とは異なり、内部寄生性のため薬剤の効果が現れにくいので、E B I 剤などの浸透移行性のある薬剤を防除体系に組み入れる。

#### 【ミナミキイロアザミウマ】

ミナミキイロアザミウマは花や生長点付近に生息し、青色粘着トラップ等に誘引されるので、早期発見の目安とする。

繁殖力がきわめて旺盛で、高密度時には卵～成虫まで各ステージが混在するため、防除が著しく困難となるので、発見次第早期防除を徹底する。

各種薬剤に対する感受性が低く、薬剤だけの防除は難しいので、開口部への防虫ネット（1mm目以下）の設置や近紫外線除去フィルムの利用、天敵や微生物農薬等による生物的防除など総合的な対策をとることが必要である。

- 2) 同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。
- 3) 効果のある薬剤等防除その他の詳細については、病害虫防除・肥料検査センター、総合農業試験場生物環境部、各農業改良普及センター等関係機関に照会すること。また、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努める。

《連絡先》

病害虫防除・肥料検査センター 米良

TEL : 0985-73-6670 Fax : 0985-73-7499

E-mail : [byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp](mailto:byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp)